

大学行政管理学会より

地区研究会の取組み ②

1. 東北地区研究会の歩み

2003年3月、大学職員のための全国的な活性化のために大学行政管理学会に東北日本と西日本の支部が置かれ、東北地区研究会には活動の実態がないままに、東日本支部の地区として位置づけられたことが記録されている。その後、念願であった東北地区研究会の第1回研究会が人事研究グループとの合同で2005年6月に開催された。この当時の東北地区の会員数は、東北五県（青森・秋田・山形・宮城・福島）に17人であった。

この際、今後の活動についての話し合いが行われ、007年2月17日・18日

東北地区研究会

仙台白百合女子大学 高橋豊

で実施された「戦略的マネジメント・セミナー」には、財務会計グループのグループワーク内で話された「金庫番から羅針盤へ」という言葉が名言として、いろいろな場面で取り上げられていたが、私はその際のグループのメンバーであったことを懐かしく思う。

東北地区研究会の活動については、2007年

土曜日の午後東北学院大学で実施し、終了後に懇親会を行うこと。(3)会員の活動は、各大学で研究会への参加と学会への加入を呼びかけること、が話された。

ちなみに私が本学会に加入したのは、2007年4月であった。当時は研究会の最後に参加者よ

り今後の活動についての意見が求められていたと記憶している。また、2007年2月17日・18日

東北地区研究会の活動については、2007年4月であった。当時は研究会の最後に参加者よ

目的は、①他大学職員との交流、②大学事務職員としての知識・能力の向上であった。当初勉強会

は、年5回（5月・7月・10月・12月・2月、土曜日午後）程度を予定してスタートしたのであ

った。

現在、東北地区研究会

で開催した研究会の通算回数は36回を数え、中堅・若手勉強会は29回に

し、年に1度は宮城県以外での実施も検討している。今後は、第1回研究会の開催から間もなく20年となるため、活動等の振り返りと見直しが必要であると感じている。今回

が、研究会後に実施したアンケートを基にして、参加者が興味を持つ内容を検討した上で、次回以降の研究会及び勉強会等

は、入試制度や教育改革等の変更に伴う説明会や中教審の答申など話題のトピックスを取り上げた研究会等を実施している。

きたし、今後も継続できるようにしたい。また、これからも実務に活かせる知識と理論的な学びを深める研究会及び勉強会等を開催していく予定である。ベテランから中

数には、地域性もあり東北6県全体で47人となっており、39歳以下の会員については16%と少ないのが課題である。また、関東圏で実施されている

の力を借りて、県外での大学見学会を開催することができた。これを契機に東北地区の活動が、さらに活発になるよう企画していく予定である。

東北の大学職員ネットワークの実現を目指して!!

2. これからの研究会の活動・企画について

東北地区研究会では、勉強会ではテーマを設定して実施することが多く、

東北地区の研究会及び学職員をテーマとした研究企画、興味のある内容を聞いた際には、「職能開発（SD）」、「業

今後は大学の職員の役割を理解し、大学を取り巻く環境、運営と経営に貢献できる職員を支援していきたい。

東北地区研究会に所属していた多くの先輩が会員や非会員の参加者に対して、一人ひとりに優しく声掛けし、これまで親

東北地区研究会では、勉強会ではテーマを設定して実施することが多く、

東北地区の研究会及び学職員をテーマとした研究企画、興味のある内容を聞いた際には、「職能開発（SD）」、「業

今後は大学の職員の役割を理解し、大学を取り巻く環境、運営と経営に貢献できる職員を支援していきたい。

東北地区研究会に所属していた多くの先輩が会員や非会員の参加者に対して、一人ひとりに優しく声掛けし、これまで親

東北地区研究会では、勉強会ではテーマを設定して実施することが多く、

東北地区の研究会及び学職員をテーマとした研究企画、興味のある内容を聞いた際には、「職能開発（SD）」、「業

今後は大学の職員の役割を理解し、大学を取り巻く環境、運営と経営に貢献できる職員を支援していきたい。

東北地区研究会に所属していた多くの先輩が会員や非会員の参加者に対して、一人ひとりに優しく声掛けし、これまで親

3. SDが結ぶ職員ネットワークの実現

東北地区研究会の会員